

Current Topics :

「手話入門」参加者の感想から

11月の土曜日に3週連続で行った「手話入門」講座には、定員を上回る申し込みがあり、複数日の開催にもかかわらず、最後まで熱心に参加されていました。最終回には参加者のみなさんからすばらしい感想が寄せられました。一部を抜粋して紹介します。

- 3回という短い期間でしたが、初めて手話にふれてみて、これからもやってみようと思いました。町で困っている人を見かけたら、ぜひ何か手助けをしたいと思います。
- この間見たテレビで、「手話が完璧にできる人が百人いるよりも、少しだけでもできる人が百万人いる方がいい」という話を聞きました。私も少しだけですが、手話ができるようになり、聴覚障害者の方々の助けができればいいと思います。

私たち相談室スタッフも、「手話を覚えてもらいたい」という理由はもちろんですが、むしろ「こんな気持ちを持ってもらえればいいな」と思って、今回の「手話入門」を企画しました。そういう意味でも、このような感想をいただけるのはとてもうれしいことです。たくさんの方が少しでも手話をわかるようになれば、聴覚障害者の方の小さな助けになるでしょうし、分かってくれる人が増えていく、すそ野が広がっていくということが、実は最も大きな支えになるのではないのでしょうか。

- 手話はどうやるのかというだけでなく、聴覚障害を持っている人の大変さが分かったことがとても大きく私に影響しました。そして一番思ったことは手話をしている人はとても表情が豊かで、見ていて純粋に心と心が通じて話せるのだと思いました。
- 本やビデオのみで練習していた私にとって、生の手話、聴こえない方々の生活にふれられたのは、とても貴重な体験でした。“手話ができない”から話ができないのではなく、“話したい”と強く願えば、手話がなくても通じることも分かりました。
- はじめは本当に興味本位で、友達同士で手話が使えたら楽しいからという理由でやってみることにしました。しかしいろいろな言葉や手話が必要なのを教えていただいたり、相手の目を見て、表情も言葉の一部として表現することをしているうちに相手に伝えることの大切さも分かったような気がしました。

文字や言葉や、表面的な会話の How To よりも、“伝えたい”という気持ちの方がむしろ、コミュニケーションをとるときに大切なのかもしれませんね。障害を持っている人と接することで、障害を持っていない人たちが、まるで目を開かされるような体験をすることも多いものです。相手に伝えることの大切さ、つまりコミュニケーションのあり方そのものを考え直す機会にもしていただけたとのこと、大変うれしい感想でした。

- 私たちは障害をもつ方々とかかわるようなボランティア活動を「何かいいことをする」みたいな感覚でとらえがちですが、そうではなくて、手話という新しいコミュニケーションを覚えてもらっているわけで、このような関係がもてるのは、とてもよいことだと思います。
- 今回の手話入門に参加し、障害者の方々がどんな生活をしているのか、また、日本がどれだけ障害者の方々にとって住みにくいところかも知ることができ、とても貴重な機会を持つことができました。

「ボランティアを通して学ぶこと」「人と人がフラットな関係を持つこと」など、ボランティア活動のよい面がギュッと詰まったような感想ですね。「大学」という中だけにいると、どうしても活動や交流の場が限られてしまうので、「社会的な広がり」という面では弱い部分もあるかもしれません。みなさんが社会的な広がり“芽”を育むきっかけにしてもらえればうれしく思います。